

生徒指導との関連を意識したカリキュラム・マネジメントの推進による魅力ある学校づくり

相楽東部広域連合教育委員会

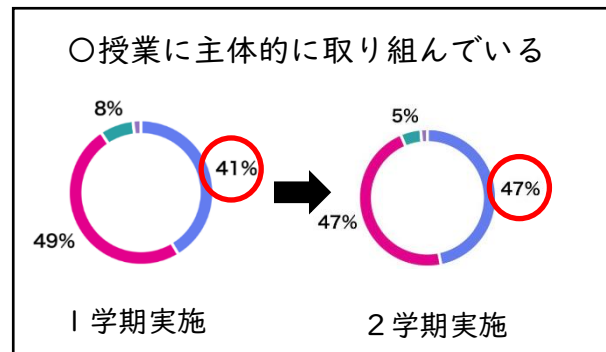
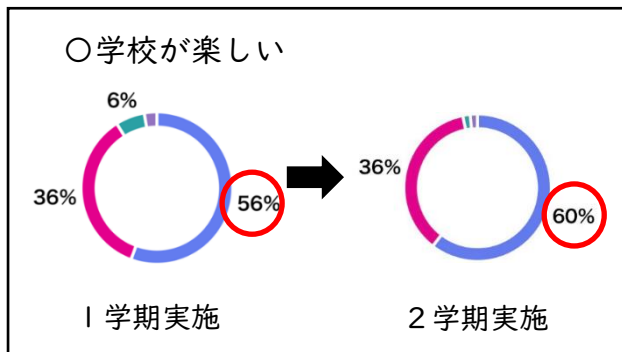
背景

- ・ 幼少期から長期間にわたり同じ集団で生活する中での思い込みや関係性の固定化により、互いに有益な関係を築けないことに起因する問題事象が各校で見られた。
- ・ 互いの特徴が分かり関係が安定しやすい一方、一度関係性が不調になると大きな変化が起こりにくく、学校復帰等につながりにくい状況が生じ得るという課題があった。

具体的取組

- (1) いじめ、不登校の未然防止の観点から、教育委員会と各校が一体となって取組を進める。
- (2) 小中・小中・中中連携する機会において、発達支持的生徒指導の視点も取り入れた「居場所づくり」「絆づくり」「仲間づくり」につながる学びの場となるよう取組を充実させる。
- (3) 小・中学校教職員研修を実施する。

児童生徒アンケートより（一部抜粋）



今年度の取組を通して、1学期と比べ「居場所づくり」・「絆づくり」・「仲間づくり」に関する項目については、増加を示していることから、学校が児童生徒にとって安心・安全な環境づくりに繋がっていると考えられる。

～ 夏季教職員研修の様子 ～



まとめ

アンケート結果（令和7年2学期末）において、心理的安全性に関わる項目では、「自分のことも、みんなのことも大切にしている」に66%が「あてはまる」と回答し、学校全体として安心できる雰囲気が定着しつつある。また管内の教職員が一同に参集した研修会を実施したことは、教職員自身が日頃の実践を振り返ることができ、それが2学期の取組に生かされ、児童生徒の変容につながったと考える。

今後は、各種取組において個別支援が広がるほど、担当教員に業務負担が集中しやすいことから、持続可能な体制づくりが求められる。